

## 報 告

# 第1回 JMLA コア研修 参加記

深井 鮎美

## I. 研修概要

特定非営利活動法人日本医学図書館協会（以下、JMLA）主催の第1回 JMLA コア研修が、2016年8月8日（月）～9日（火）に Learning Square 新橋の会場で開催されました。

プログラムは、ヘルスサイエンス図書館特有の必須基礎知識・スキル習得を目指した6科目（コア1～6）の講義や演習で、参加対象は JMLA 会員・非会員を問わず、ヘルスサイエンス分野の情報サービスの基礎を学びたい人となっており、東北から沖縄まで全国の大学図書館、病院図書館、公立図書館、企業より51名が参加されました。

## II. 研修当日まで

### 1. そうだ 「ヘルスサイエンス情報専門員」資格、取るう。

知識豊富な病院図書館の先輩方が JMLA の認定資格「ヘルスサイエンス情報専門員」をお持ちということは、以前から何って興味を持っておりました。自分もただやみくもに図書室勤務年数を重ねているだけではなく、自己研鑽を積み、知識と経験の客観的指標としてヘルスサイエンス情報専門員の資格取得を目指すことを上司に相談し、コア研修参加のために休暇をいただく許可を得ました。

### 2. そうだ 申し込みは、今だ。

コア研修の参加申し込みは5月9日に開始されました。コア研修の参加はヘルスサイエンス

情報専門員申請の必須要件であり、年に1度しか開催されないこの機会を逃してしまうと資格取得が1年遅れてしまいます。そのため、今年参加する気満々だったのですが、上司に参加を相談したのが5月20日、申し込みを行ったのは6月2日でした。参加費は JMLA 会員と非会員で料金が異なります。JMLA 入会を同時に申し込んだところ、JMLA 事務局から「入会手続きに3週間ほどかかりますが、現時点でコア研修の定員まであと数人なので、手続き完了まで待っていると定員に達する見込みです。どうしますか？」とお電話をいただきました。参加申し込みの締切日は7月8日だからとのんびりと構えている場合ではありませんでした。JMLA 入会はひとまず見送り、今回は非会員として申し込み、滑り込みセーフで参加ができませんでした。会場の関係で例年に比べ少ない定員だったこと、昨年までは「医学図書館員基礎研修会」として開催されていた研修が内容を一新し「コア研修」としての初開催ということで参加希望者が多かったようで、締切日よりかなり早く定員に達したそうです。今後、コア研修の申し込みを考えていらっしゃる方には、入会申し込みは事前に完了しておくこと、研修申し込みが始まったら早めに申し込むことを強くお勧めいたします。

### 3. そうだ 名刺、作ろう。

前年に受けた研修で、講師が「図書館員の推定3割が名刺を持っていない。（中略）初対面の相手に対する礼儀を欠く点で、ビジネスの常識がない人物だという印象を与えてしまう」<sup>1)</sup>と、さまざまな名刺デザインの例を挙げ、名刺を持

ふかい あゆみ：大津赤十字病院

つように発破をかけられました。この8年間は所属病院から名刺を支給されていないからと「名刺を持たない3割の図書館員」の端くれでした。近畿病院図書室協議会の研修会は日常業務であらかじめ名前や所属を知っている方々とお会いするので、名刺を持たずともなんとなく来てきましたが、コア研修の参加者はまったく面識のない方がほとんどです。この貴重な機会に、日頃 ILL でお世話になっている大学図書館員の方々と交流を持つにあたって、名刺は必要不可欠に違いありません。せっかくなので、一期一会の方に少しでも印象づけられるよう、病院で支給されるシンプルなものではなくオリジナルデザインの名刺を作ることにしました。デザインの得意な友人に依頼し、滋賀県=琵琶湖と、私の名前（深井 祐美）と結びつくイメージである「水」をモチーフに、名前をデザイン漢字にしたお気に入りの名刺（図1）ができ上がりました（後に知ったことですが、職員の名刺は自動的に支給されるものではなく自費で病院に注文するとのことでした）。

不思議なもので、名刺を作っただけで気持ちが盛り上がり、研修に向けてさらに前向きになりました。



図1 オリジナル名刺

### Ⅲ. 研修第1日目

#### 1. いざ 研修スタート

会場は新橋駅から徒歩2分と便利な場所がありました。余談ですが、貸会議室の上階には大手の広告代理店が入っていて、お昼休みと同じ

エレベーターを使っているとまるで自分も東京の大手広告代理店のOLになったような気分も味わえました。都会での研修は何かと刺激的です。

開始時間の10分前から受付開始とアナウンスされていたのでそれまで時間をつぶし、受付時間に会場に入ると、すでに大半の参加者が着席されており、皆さまの研修への気合が感じられました。

開会式、研修についてのガイダンスがあった後、酒井由紀子JMLA理事による「キャリアプランを考える」と題したお話を頂戴し、キャリアプラン記入シートが配布されました。

- ①5年後の自分はどうなっていたいですか
- ②10年後の自分はどうなっていたいですか
- ③現在の自分の強みは何でしょうか
- ④現在の自分の弱みは何でしょうか
- ⑤目標に向かって何をしたらいいでしょうか

2日目最後の講義までにこの5点の項目を考えながら受講することとなりました。

#### 2. コア4 医学図書館の利用者の特徴とサービス 鈴木孝明氏（奈良県立医科大学附属図書館）

日本の医療制度の概要・特徴・課題、医療従事者の資格、医療関係法規、医療費の仕組み、医療教育制度、卒後臨床研修制度、海外の医学教育制度、医師のキャリアパス、看護師のキャリアパスなどについてお話いただきました。

私は恥ずかしながらこの講義で初めて共用試験（CBT、OSCE）の存在を知りました。平成17年に開始した全国共通の試験で、医学生が臨床実習を満足に行うことのできる知識・技能・態度が備わっているかを判定する試験です（きっと皆さんは当然ご存知なのでしょう……）。当院にも医学生が臨床実習に来られるのですが、彼らは実習の前にしっかりとこのような試験をパスしてきているのですね。

病院図書館の担当者には「病院の職員として採用され、図書室に配属された場合」と「図書室担当者として採用され、他部署に異動しない場合」があると思います。前者の方ですと、医

療制度の知識を身につける機会があると思いますが、私は後者の場合で、自分の専門である図書館分野の知識を広げることしか頭になく、利用者である医師、看護師、コメディカルのバックグラウンドや、病院の存在の根底である医療制度そのものについては知る努力をしていなかったと反省しました。

### 3. コア3 医学情報資料論 山口直比古氏

(日本医学図書館協会 正会員個人)

学術雑誌の誕生の歴史と発展の背景、自然哲学・医学の歴史、医学雑誌の歴史から、現在の電子出版への流れ、データベースの紹介や電子書籍についてまで、資料の媒体の変遷をお話いただきました。

「資料論」という単語は大学時代の司書課程の授業を思い出します。コア研修の中では最も図書館学に寄った内容でした。

### 4. コア2 医学の学問体系と医学用語の基礎知識

#### (1) 医学概論 山田久夫氏 (関西医科大学)

ギリシャ時代からの医学・科学の歴史、ヨーロッパやアメリカの大学の歴史、日本における江戸時代の解剖学についてといったお話から、現代の医学教育の特徴、医学部の特性、医学部・病院の構成、人体の構造と機能の基本といった幅広い内容を、イラストや写真がふんだんに使われたスライドでお話いただきました。

普段から医学生に授業を行っていらっしゃる医科大学の教授だけあって熟練されたご講義で、まるで自分が医大生になったような気持ちになり引き込まれました。コア4とも共通しますが、今まで勉強してこなかった医学分野の知識は個人的に大変新鮮で実りの多い内容でした。

#### (2) 医学用語入門/NLMC 入門/MeSH 入門/

まとめと演習 阿部信一氏 (東京慈恵会医科大学学術情報センター)

英語の医学用語の成り立ちについての解説や、NLMC (米国国立医学図書館分類表) の分類の概要を、練習問題も交えながらご講義いただき、引き続き医大生気分を味わいました。心臓の部分名称の穴埋め問題は、昔理科の授業で習った

はずでしたが、とんと頭から抜けており、継続学習の大切さを痛感しました。

MeSH (Medical Subject Headings) とシソーラスについての概要、その階層構造やサブヘディング (副標目) についてのお話を聞いている間はつかめたような気になりましたが、また一人になるとほんやりとしかその姿をつかめない MeSH……。当面の目標として、利用者には MeSH、シソーラス検索の指導ができるくらいまで習熟したいとあらためて思いました。

### 5. 懇親会

1日目終了後は会場近くのイタリアンレストランで立食パーティー形式の懇親会が行われました。講義前後の休憩時間ではなかなかあいさつが交わせなかったのですが、懇親会では参加者をはじめ、講師や JMLA スタッフの方々ともごあいさつすることができました。この日のために作った名刺にも目を留めていただき、会話の糸口に大いに効果を発揮してくれました。大学図書館や公立図書館の方々と仕事内容の情報交換をすることは新鮮で、話は尽きませんでした。「病院図書室は基本的に一人で担当しています」と言うと、皆さまから「それは大変ですね」とねぎらっていただきましたが、一人職場は相談する人が近くに居ないなどの苦労は当然ありますが、大学図書館に比べると仕事量の規模はまったく違うと思うと居たたまれない気分……。余興のリボンブルズではスポンサー会社のロゴ入りグッズなどの景品が当たり大変盛り上がりました (目玉景品はボトルワイン!)。おしゃべりに花を咲かせながら、食べきれないくらいたくさんの美味しい料理を堪能した、あっという間の2時間でした。

余興のリボンブルズではスポンサー会社のロゴ入りグッズなどの景品が当たり大変盛り上がりました (目玉景品はボトルワイン!)。おしゃべりに花を咲かせながら、食べきれないくらいたくさんの美味しい料理を堪能した、あっという間の2時間でした。

### IV. 研修第2日目

#### 1. コア5 PubMed/医中誌 Web 検索初級

##### (1) 医中誌 Web 検索初級 笹谷裕子氏 (杏林大学医学図書館)

2日目の午前、PC ルームを使っての検索演

習でした。参加者は二つの部屋に分かれ、PubMedと医中誌Web（以下、医中誌）の検索演習を交代で受講しました。

私のグループは先に医中誌検索を行いました。テキストブックに穴埋めをしながら進められた講義は、自分が受験生になったかのように気が引き締められました（テストはありませんでしたが）。ここで得た豆知識は、医学中央雑誌の創設者である尼子四郎氏は、夏目漱石の小説『吾輩は猫である』の登場人物である甘木先生のモデルであるということでした。もしかして常識でしょうか？私は初耳でした！いつか医師との雑談でこの豆知識を披露したいと思います。もちろん教えていただいたのはそれだけではなく、医中誌に収録された論文の種類（原著論文、会議録など）とその割合、論理演算子、シソーラス参照タブ、シソーラスとその副標目など、なんとなく知った気になっていたことから、知らなかった裏技まで医中誌検索のコツを学ぶことができました。

検索演習では、自然語による検索、シソーラス、下位語、チェックタグ、論文デザイン、研究デザインなどの結果の組み合わせにより医中誌で何件ヒットするかの違いが大変わかりやすかったです。

## (2) PubMed 検索初級 山口直比古氏（日本医学図書館協会 正会員個人）

PubMedのMeSHを使った検索演習では、LSD（ライフサイエンス辞書）から日本語を英語に翻訳し、そこからMeSHデータベースにアクセスする方法を教えてくださいました。演習問題は私には少し難度が高かったです。先の医中誌演習でシソーラスブラウザを使う方法を学んだので、そちらを使う受講者も多くいたようでした。

情報検索はさまざまなアプローチ方法があり、利用者が求める情報を提供するには多くのアプローチ方法を知ることが重要であると感じました。

## 2. コア6 一般市民への医療・健康情報提供 市川美智子氏（愛知医科大学医学情報センター（図書館））

午後からは再び大部屋に参加者全員が集い講義を受ける形でした。

市民に必要とされる医療・健康情報はどのような内容か、市民はどうやって情報を入手するか、さまざまな研究や調査結果のデータと共にお話しいただきました。ただ、データによって調査対象も違えば結果はさまざまで、情報の量も入手方法も急激に選択肢が広がる現代では「市民の行動はこうである」と言い切れない研究分野であるのかなと思いました。

ヘルスリテラシー（メディアリテラシー）習得支援とヘルスコミュニケーションの手助けが図書館での医療情報提供の目的であり、医療用語の言い換え、インタビュー内容、倫理的・法的に注意する点など、公共図書館や患者図書館には重要な医療情報提供のポイントをお話しいただきました。

## 3. コア1 JMLAの活動とヘルスサイエンス情報サービス専門職 酒井由紀子氏（慶應義塾大学文学部）

冒頭には、JMLAの掲げる「医学図書館員のための倫理綱領」を読み合わせました。ヘルスサイエンス情報専門員の要件として、この倫理綱領に対する宣誓の署名が必要となります（この倫理綱領は図書室内の自分が見える場所に貼り、読んでは気を引き締めて仕事に向かっています）。JMLAの概要、活動内容、認定資格「ヘルスサイエンス情報専門員」の概要、日本のヘルスサイエンス情報サービス機関の現状をお話しいただいた後、自身は今後どうキャリアアップしていきたいかをキャリアアップ記入シートに書き綴りました。

望みは、口にすると実現するそうです。5年後、10年後の自分、皆さんはどうなっていたいですか？コア研修は、そのヒントを見つけられる機会かもしれません。

## V. まとめ

医学図書館員基礎研修会からコア研修へプログラムが変更され、記念すべき第1回目のコア研修でした。基礎研修会は3日間開催で、グループ討議や図書館学の基礎的な内容の講義もあったようですが、コア研修は2日間開催となり、よりヘルスサイエンスに特化した多角的な講義と、検索演習に絞られている印象を受けました。内容は、まったくの初心者向けというよりは中級の入口、司書資格を持っている前提のレベルだと感じました。病院図書館担当者の中には異動で図書室担当になり司書資格を持っていない方もいらっしゃいますが、その場合は少し難度が高いと感じられるかもしれません。

2日間朝から夕方までみっちり講義や演習を受講するのは日常業務とはまったく違うペースで新鮮でした。病院図書館で一人ルーティンワークに固まってしまうと、自分の知る範囲以上の知識や技術がどれほど深く広く広がっているかということすらわからなくなります。司書は専門職であり、専門知識を深めてゆかねばなりません。ヘルスサイエンス情報専門員にとっての専門知識とは、図書館についてだけではなく医療・医学・健康についての分野も指すということを思い知らされました。

閉会式では、酒井理事より一人一人にコア科目受講証明書を授与していただきました。卒業証書をいただくような気持ちでしたが、実のと

ころはJMLAの扉を開いたばかりです。近い将来には「ヘルスサイエンス情報専門員」の肩書きを名刺に入れられるよう、精進していきたいと思えます。

最後になりましたが、コア研修の主催、運営をしてくださったJMLAの皆さま、講師の皆さま、参加者の皆さま、研修に送り出してくださった職場の皆さま、参加記執筆の機会を与えてくださった近畿病院図書協議会の皆さまに、この場を借りて御礼申し上げます。

## 参考文献

- 1) 仁上幸治：ひとり職場の有利さを活かす～決断と実行は自分しだい～. 日赤図書館雑誌. 2015;22(1):10-7.
- 2) 酒井由紀子：5年目を迎えた特定非営利活動法人日本医学図書館協会認定資格「ヘルスサイエンス情報専門員」. 情報管理. 2010;52(11):635-44.
- 3) 酒井由紀子：「ヘルスサイエンス情報専門員」と図書館員の専門性. 病院図書館. 2010;30(4):186-93.
- 4) 斎藤晴恵：尼子四郎と夏目漱石. 医学図書館. 2006;53(1):60-4.
- 5) 松本直子：第20回医学図書館員基礎研修会報告. 医学図書館. 2014;61(1):70-5.
- 6) 宮本高行：第21回医学図書館員基礎研修会報告. 医学図書館. 2015;62(1):28-33.
- 7) 野崎由紀：第22回医学図書館員基礎研修会報告. 医学図書館. 2016;63(1):63-8.
- 8) 中村さやか：JMLA第20回医学図書館員基礎研修会 参加記. 病院図書館. 2013;33(2):130-3.